

コクチバス

目科名：スズキ目サンフィッシュ科
学名：Micropterus dolomieu
原産地域：北アメリカ

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来水生生物の駆逐

- ・在来魚を食べて駆逐
- ・流速の速い場所では、在来魚とエサをめぐり競合

産業：漁業への被害

- ・アユやウグイ等の水産有用種を食害

【オオクチバスとの見分け方】

オオクチバス
全長 30～50cm (最大 97cm)



コクチバスとは
体側の模様が違う

コクチバスに比べて口が大きい
(上顎の後端が目の後縁より後方に達する)

全長 30～50cm 最大 69cm

【成魚】



口が小さい
(上顎の後端が目の中央より前方にある)

体側には 8～15本の
不規則な暗色の横帯が入る

未成魚の期間は約 2年
(1年で全長 15cm、
2年で 22cmに達する)

【未成魚】



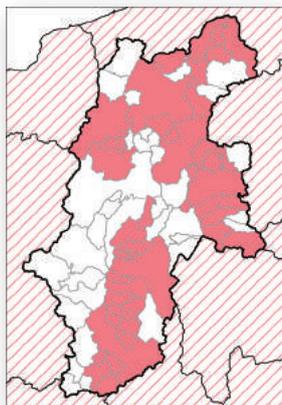
【どこまで広がっているか】

長野県では

- ・天竜川、千曲川に生息
- ・青木湖、中綱湖、木崎湖、野尻湖等では高密度に生息
- ・湖の流出河川にも生息

全国では

- ・1925年の初導入時は定着せず
- ・1990年代に再導入され、意図的な放流で急速に分布が拡大
- ・現在は、北海道から九州で分布記録、東北から近畿地方に定着



2019年現在
■ 定着 ■ 一部地域に定着

成魚と比べて体側の
黒色の横帯が黒く明瞭

【生息場所・食べ物】

- ・湖沼や河川等に生息
- ・河川では、流れのゆるい所に多い
- ・オオクチバスよりも低水温や流水域に適応できる
- ・魚類や水生昆虫類、水面上に落下した昆虫等を食べる

【生活史】

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">成魚</div> <div style="flex-grow: 1; text-align: center;"> <p>産卵期</p> </div> </div>											
<ul style="list-style-type: none"> ・最長寿命は 15年 				<ul style="list-style-type: none"> ・オスが砂礫底に掘ったすり鉢状の産卵床に、メスが沈性付着卵を産む ・体内卵数は 5,000～14,000個で、大きなメスほど多い ・卵と仔魚は、オスに保護される 							
<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="width: 20px; height: 10px; background-color: blue; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">仔魚・稚魚</div> <div style="width: 20px; height: 10px; background-color: blue; margin-left: 5px;"></div> </div>											
<p>*雪解け水が流入する河川では水温が産卵に適する温度になっても、水位が低下しないと産卵が行われないことが判明している</p>											

【防除方法】

特定外来生物コクチバスの生きたままの運搬は禁止されています。
捕獲したら、陸上に上げる、土に埋める等、その場でしっかり殺処分しましょう。

釣りて捕獲 繁殖を抑制する



▶詳しくは、水産庁発行「誰でもできる外来魚駆除」を参照

釣りは、大型魚を駆除できる効率的な方法。釣った魚をリリースしないことが重要!

●釣りて捕獲する

- ・餌釣り、ルアー釣り（流水、止水どちらでも）
竿：溪流竿 or 本流竿 (4.5-8.5m)
仕掛け：2.0-2.5 号道糸+小型玉浮き+1.5-2.0 号ハリス+針
餌：大型シママミズ 2-3 匹を房掛け
※川ではオモリを使わず、ドバミミズの自重で投げ、流すのがよい
- ・ペットボトルを用いた流し釣り（止水域）
蓋をしたペットボトルに1mの釣り糸を結ぶ
軸長2cmの釣り針をつけ、生き魚の背をちょん掛け
上記のペットボトル仕掛けを流し、1日後に回収

●釣り大会に参加する

- ・天竜川、農具川、仁科三湖では、外来魚駆除を目的とした釣り大会が開催される
- ・所管する漁協、漁連に問い合わせて、開催日を把握する

漁具漁法によって必要な手続きや体制があります

- ・漁具の使用は、「長野県漁業調整規則」に従うこと
- ・禁止事項の一部を特別に許可する特別採捕許可（特採）の申請が必要な場合もある
- ・漁業協同組合と調整が必要な場合もあり

どのような捕獲ができるか、まずは相談を!

- ・漁業調整規則や申請についての相談先
▶ 各地域振興局 農業農村振興課
▶ 県庁 園芸畜産課 水産係
- ・漁法や場所についての相談先
▶ 県水産試験場

捕獲する 根絶を目指す

●網等で捕獲する

- ・刺網で捕獲する（目合いによって要特採）
- ・電気ショッカーボードや電気引き縄*、水中銃で捕獲する（要特採）※河川での捕獲に適した方法

●ため池の水を抜く（在来の水生生物に十分な配慮を!）

- ・小規模な池等であれば、水を抜いての捕獲が可能
- ・水を抜いたあとは、しばらく干す
- ・水量を減らして、水温を高くすることで死滅させることも可能
- ※管理者、所有者と相談が必要
- ※作業前に外来種が流出しない対策をすること

次世代を絶つ 繁殖を抑制する

●卵を駆除する

- ・産卵床（径40~100cmの円形）の卵を除去する
- ・産卵床はオスによってきれいに掃除されており、特にコクチバスでは、その部分が白く輝いているため、容易に識別可能
- ・透明度が低い等、産卵床を確認できない場所では人工産卵床を設置し、産み付けられた卵とそれを守るオス親を駆除する

●産卵適地を網等で囲う

- ・産卵期、産卵場所を刺網やネット等（目合いによって要特採）で囲い、親魚を捕獲かつ産卵床の形成を阻止する
- ・池やダム湖等の止水域で水位を低下させる

●オス親を捕獲し、他魚種による卵の捕食を促進させる

- ・小型三枚網で、産卵床を守るオス親を捕獲する（要特採）
- ・卵を守るオスがなくなると、ほとんどの卵がウグイやコイ等の他魚種に捕食される

●浮上仔稚魚を捕獲する

- ・産卵床の上に浮上してきた仔魚と稚魚をタモ網（要特採）で捕獲する（浮上後3日程度は小さく群れている）



【刺網】（目合いによって要特採）
刺網にかかった魚は全て弱ってしまうため、在来種が犠牲とならないように目合の大きさを5cm程度に調整するなど配慮する。



【電気引き縄】（要特採）
電気ショックにより水面に上がってきた魚類のうち、コクチバス等の外来種を選択的に駆除する。麻痺から回復したる在来種は元の場所に返す。



【人工産卵床】
オスのコクチバスが作る産卵床を人工的に再現したもの。ホームセンター等で材料を入手して作成することが可能。基本の形は、園芸用の苗入れ用トレイやザルの中に、石を入れたもの。フロート式やつり下げ式等、いくつかのバリエーションがある。



【小型三枚網】（要特採）
細かい目合の網の両側に、大きい目合の網を重ねた計3枚の網。上部にウキ、下部におもりがあり、水中で自立する。各産卵床の上に1基ずつ設置し、オスを捕獲する。（網が汚れてくると、網の存在を魚が認識してかかりにくくなる事例あり。）